

ロージンググラップル 開発試験の視察検討会

令和元年8月20日から約一か月間、奥州市胆沢若柳地内の東前川山国有林52林班内において、イワフジ工業株式会社（以下イワフジという）が、「ロージンググラップル」と呼ばれる従来の架線集材の搬器にAI画像認識機能、グラップル（掴み装置）、情報通信機器などを搭載し、架線集材を自動化するシステムの開発試験を行っています。

これは、オペレーターひとりで、画面を見ながら架線集材ができるもので、イワフジでは、林野庁が進めているスマート林業構築実践事業により開発、試験運用を重ね実用化を目指しています。

現在、東北地域での伐出作業は、車両系となっていますが、関東以南では、山が急峻なため現在でも架線による伐出作業が多いようです。

今回、北上川中流域森林・林業活性化センター、岩手県、当署が連携し、イワフジのご協力の下、9月18日に県内外の林業関係者、団体等160名の参加者により視察検討会を開催しました。

検討会では、ロージンググラップルが実演され、機械の動き、映像、自動運転などについて、説明を受けながら、世界初の最新技術を目の当たりにすることができました。

今回使用したロージンググラップルは、現在は撤去され、引続き実用化に向けた試験運用を和歌山県で行い、AIのデータ収集、改良を行っていく予定とのことで、今回隠れたお披露目となった「5胴式タワーヤーダ」（2019.4発売）も関東で活躍する予定と聞いています。



今回、多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。

今後もこのような機会がありましたら、情報を提供しますので、引続きよろしくをお願いします。

※スマート林業とは

就業者が激減した林業において、少ない人材を「次世代の林業の担い手」として育成しIT技術を駆使して森林管理を「可視化」することにより、安全面でもコスト面でも多角的に効率のいい経営ができる取り組み。